

浜離宮

江戸幕府の海軍基地

2009-04-19

横浜市歴史博物館

公開用

中世城郭研究会 西村 和夫

カシタ沙留

大手門柵形

内堀

中門柵形

国土画像情報 国土交通省

N



概要

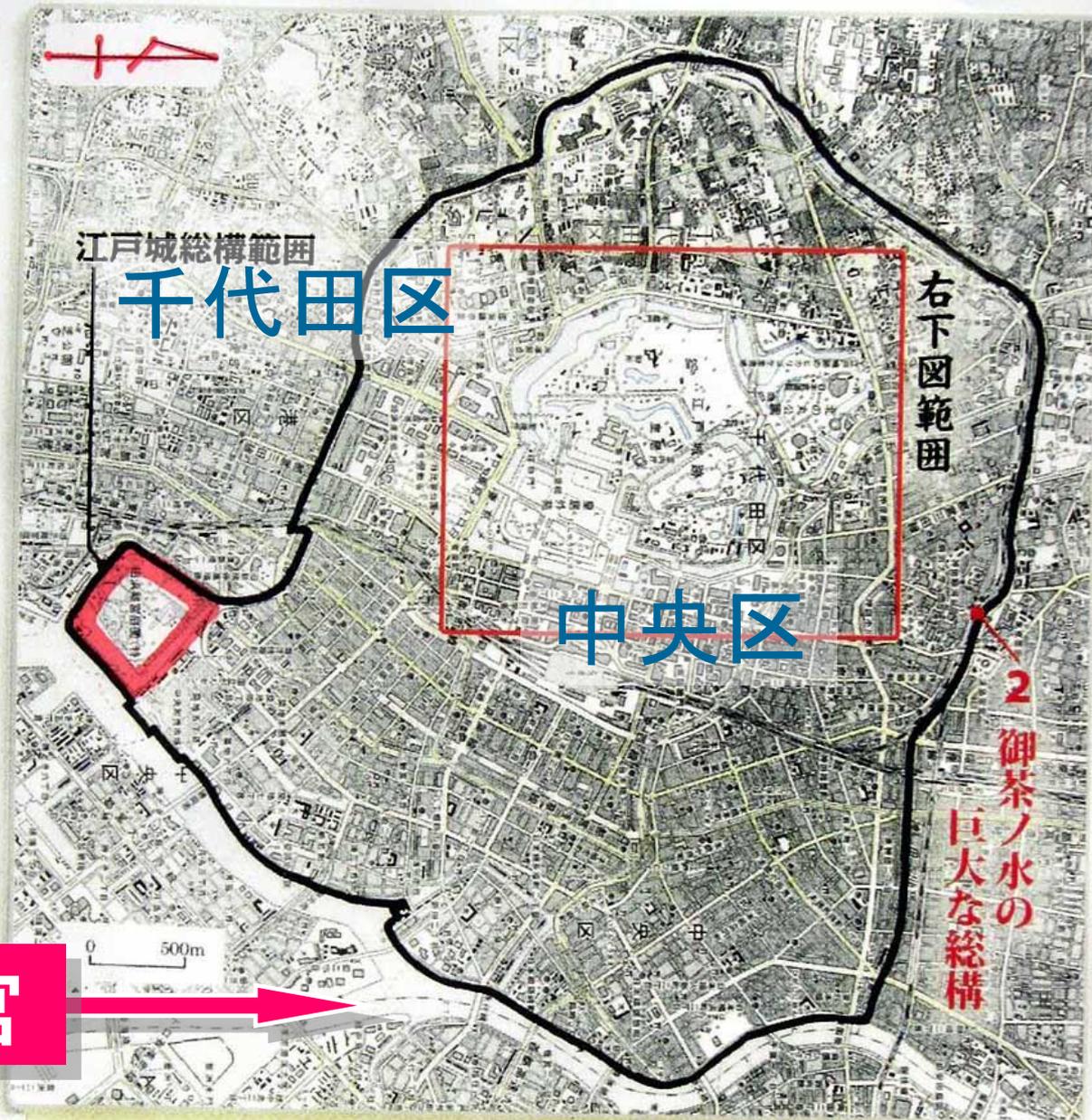
- 将軍の私的な庭園だった（接待も）。
- 江戸城外郭の機能ももっていた。
- 幕末に将軍の大型船乗り場だった。
- 幕末に名目上の海軍基地になった。
- 大手門の枳形と櫓台が現存している。

外郭

日本名城ベスト10
③ 江戸城

N

浜離宮



江戸城の総構は断続的に残っている。

国土地理院発行の2万5000分の1地形図（東京首部、東京南部、東京西部、東京西南部）を使用。

[百選] 『日本名城百選』

もくじ

- ◆ 名称の変遷
- ◆ 機能の変遷
- ◆ 遺構
- ◆ 年表
- ◆ 警備（格式）
- ◆ 立地
- ◆ 城郭らしい現存遺構
枳形，櫓台
- ◆ かつての建物
渡櫓（古写真）
- ◆ 海軍所
- ◆ 延遼館
- ◆ 訪れた外国人
- 参考文献

名称の変遷

甲府宰相（松平綱重） 浜屋敷

➤ 浜御殿 一般名詞

➤ 浜離宮（明治時代）

➤ 浜離宮恩賜庭園（昭和21年）

◆ 旧浜離宮庭園
（史蹟名称）

機能の変遷

邸宅

- 庭園（兼 江戸城外郭にあった出城）
- 海軍基地（幕末「幕府海軍伝習屯所」）
- 接待所（明治時代「延遼館」）
- 公園・史跡（昭和23年 名勝・史跡）
（昭和27年 特別名勝・特別史跡）。

遺構 大手門跡



櫓台に
白い石

遺構

- ・ 大手門 ^{やぐらだい} 櫓台
- ・ 大手門 ^{ますがた} 枿形
- ・ 中門 枿形（かなり破壊）
- ・ 外周の 総石垣
- ・ 将軍上がり場（現状は最末期）
- ・ 内堀と雁木（粃の運搬用）
- ・ 潮入の池
- ・ 鴨場

浜御殿 年表

承応三	1654	松平綱重が将軍家綱から1.5万坪の土地を賜り、海を埋め立てて邸地とする。
寛文四	1664	3万坪弱が加えられる。
宝永一	1704	綱重の子綱豊(家宣)が将軍綱吉の養子となり、将軍家の浜御殿と称される。
宝永六	1709	家宣が将軍になる。浜御殿奉行を置く。
享保九	1724	浜御殿(建物)が大火によって類焼。
嘉永六	1853	沿岸砲5門を設置。
慶応二	1866	将軍家茂の棺が海路帰還。海軍所と称す。
明治一	1868	徳川慶喜が大坂から海路帰還。
明治三	1870	宮内省所管。離宮となる(延遼館を除く)。

警備（格式）

浜大手門 [見附] ←参考文献

- 「一万石以下五千石以上 寄合衆 三カ年謹仕、番士三人羽織袴着」
↑ 旗本
- 鉄砲五・弓三・長柄十・持筒二・持弓一
- 虎ノ門と同格

濱御殿奉行 永井伊豆守 → 木村摂津守.

立地

- 元は **江戸前島** 先端の浅瀬 [江戸]
- 現在は **汐留** の海岸（汐留駅から5分）.

立地

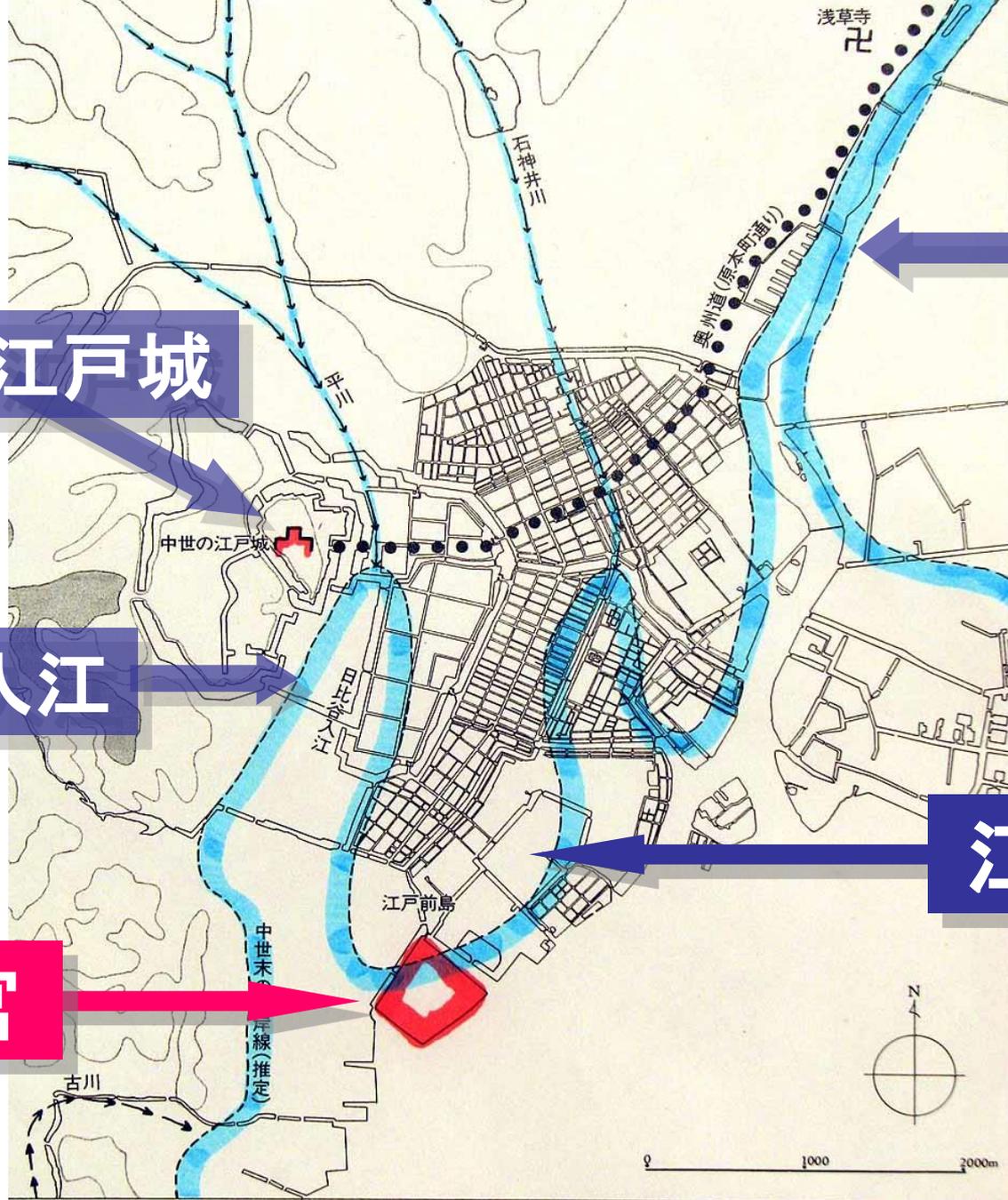
中世の江戸城

日比谷入江

浜離宮

隅田川

江戸前島



立地

- ・ 外洋から隅田川（大川）への唯一の
大型船航路 に面す。 [築港] [湾図]

立地

東京築港計画平面図

縮尺 二万九千五百分一

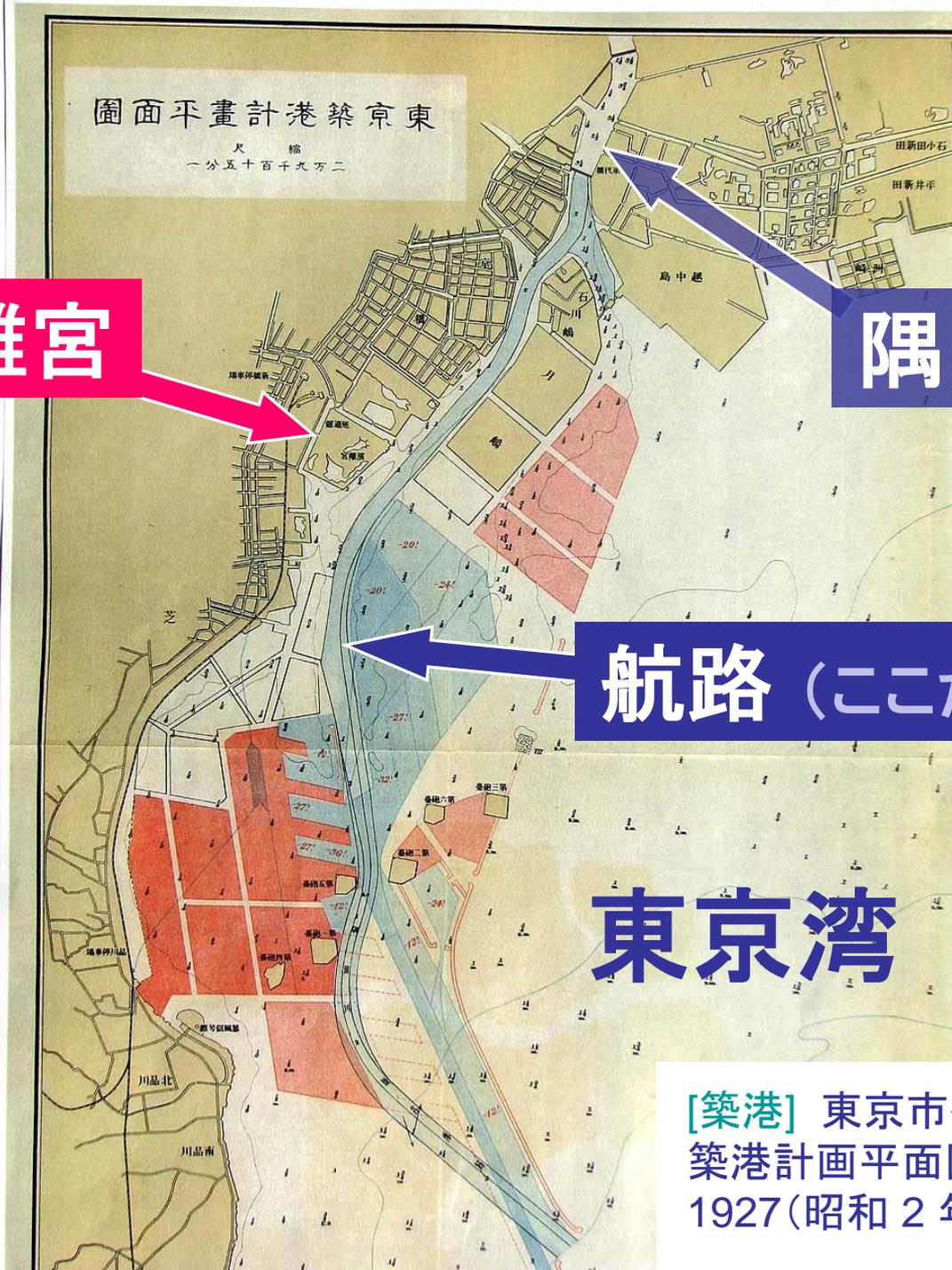
宮離浜

隅田川

航路 (ここだけ深い)

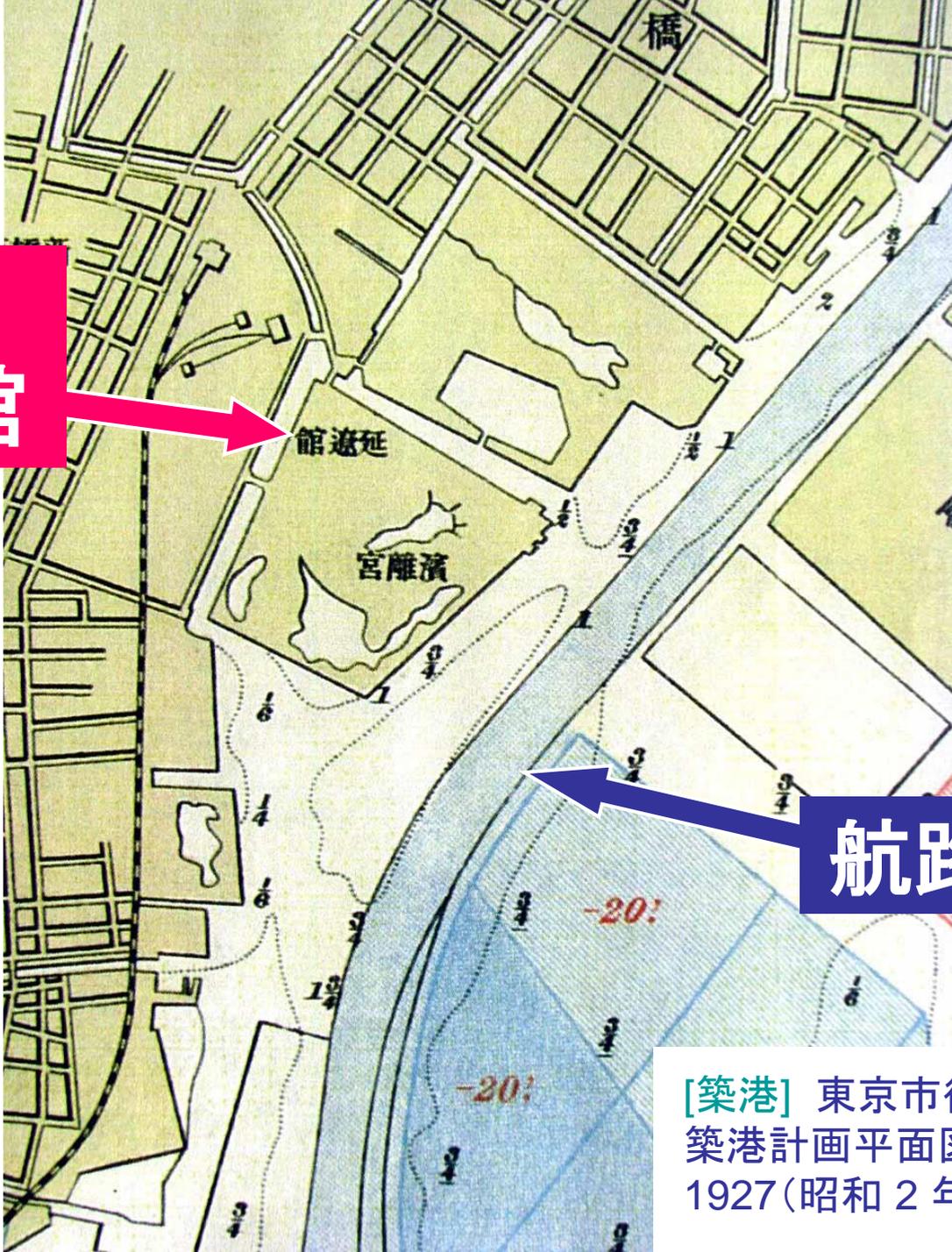
東京湾

[築港] 東京市役所編纂「東京築港計画平面図」『東京市史稿』, 1927(昭和2年).



立地

浜離宮
延遼館



航路

[築港] 東京市役所編纂「東京築港計画平面図」『東京市史稿』, 1927(昭和2年).

立地

台場

お台場

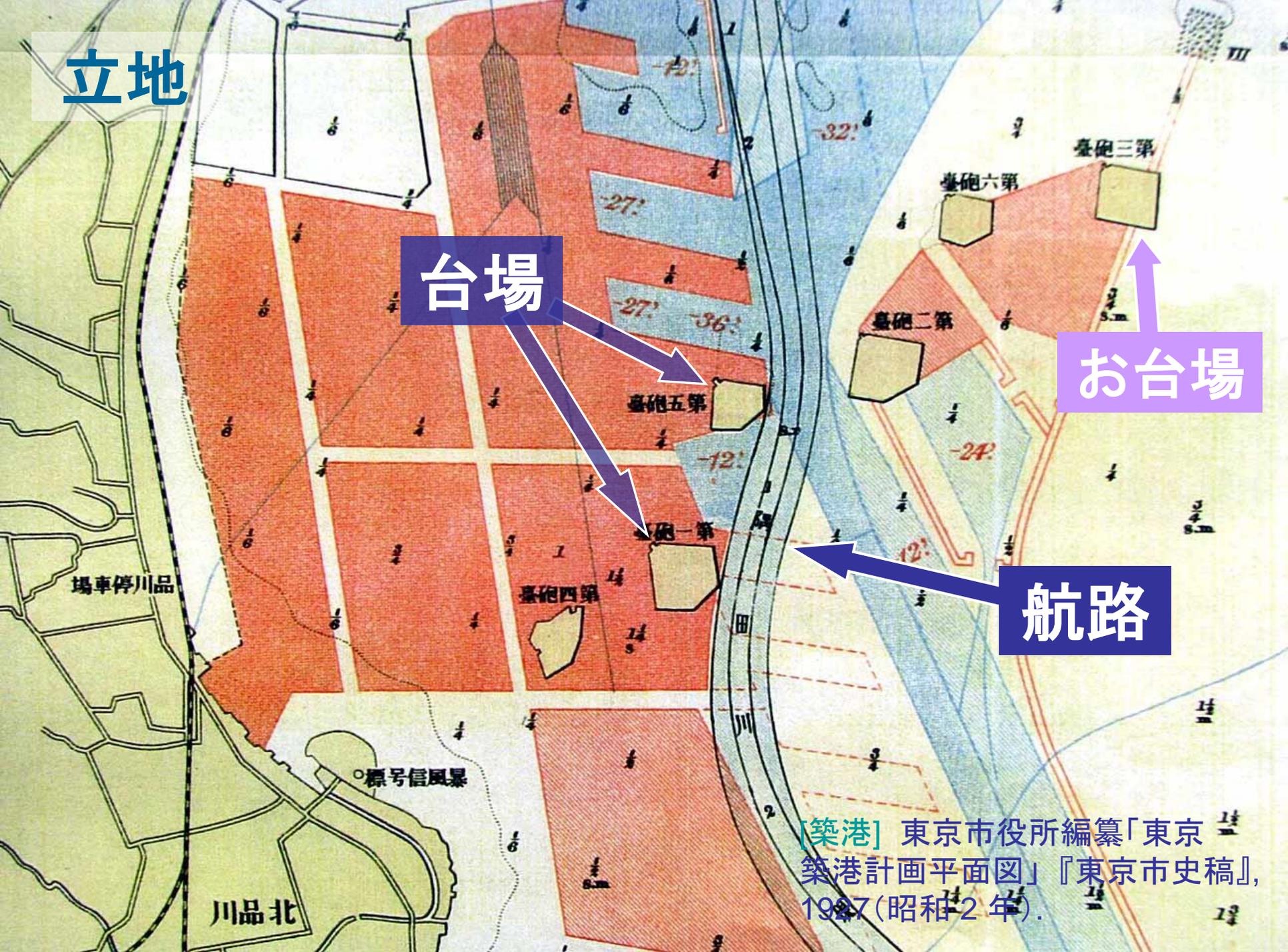
航路

品川停車場

○ 暴風信号標

北品川

[築港] 東京市役所編纂「東京築港計画平面図」『東京市史稿』, 1927(昭和2年).



立地

1 明治五年 武蔵国東京海湾図



浜離宮

明治5年

航路

[湾図]「明治五年 武蔵国東京海湾図」
『中央区沿革図集』京橋図書館, 1994.

城郭らしい現存遺構

- 全体の形状が 四角
 - ➡ しかし、付近の埋立地はみな四角 [復元]
- 柵形 2 箇所（「浜大手門」という呼称）
- 周囲が 水堀。



水堀

大手門枳形

中門枳形



⊗蔵
尾張名古屋藩(愛知)
尾張中納言慶勝
〔徳川〕
六十一万九千五百石

御舟蔵

御上り段

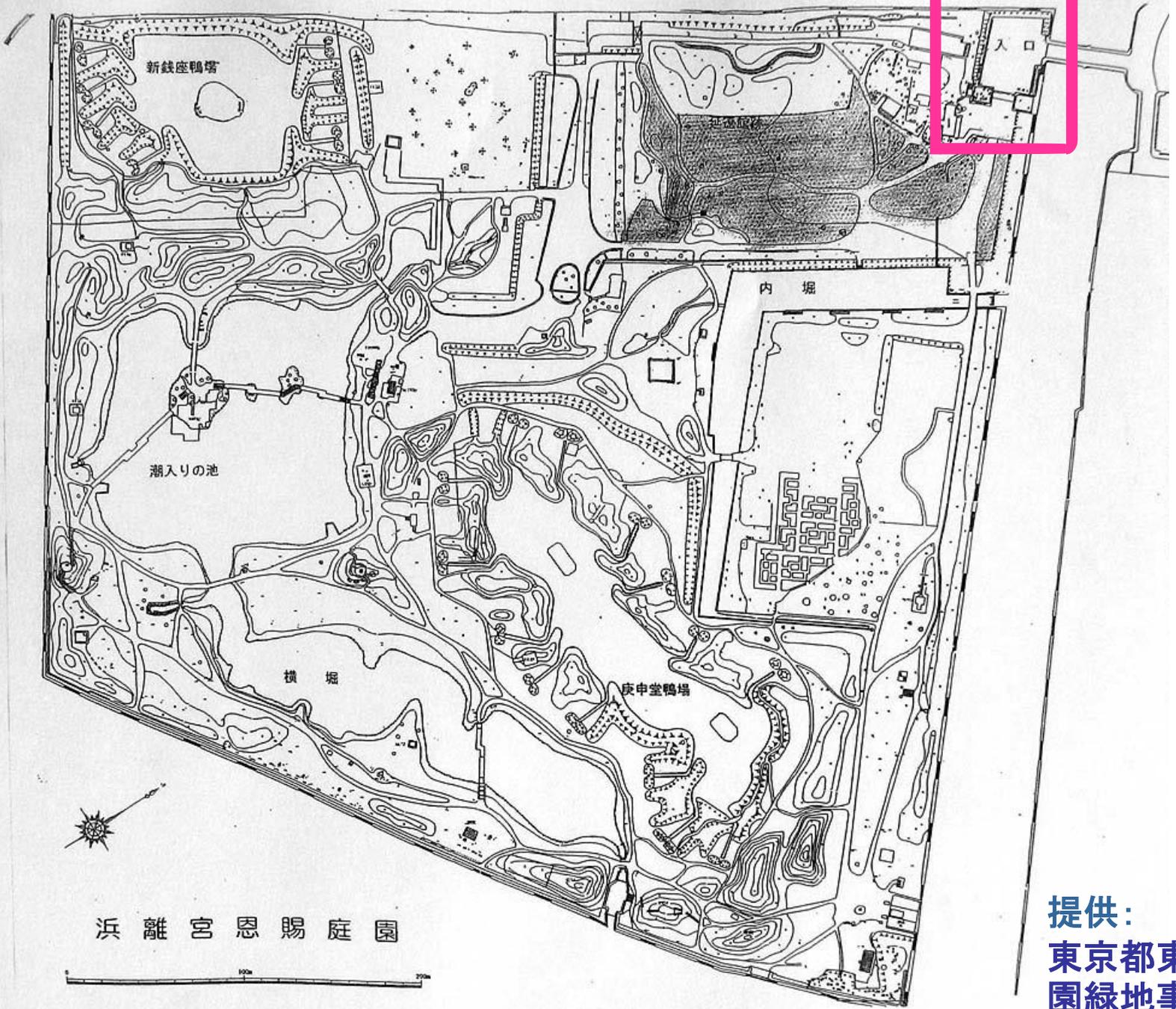
海手御門

安政4年頃売市場

城郭らしい現存遺構

- **大手門** 宝永四 (1707) 年建設
 - 枳形
 - 櫓台.

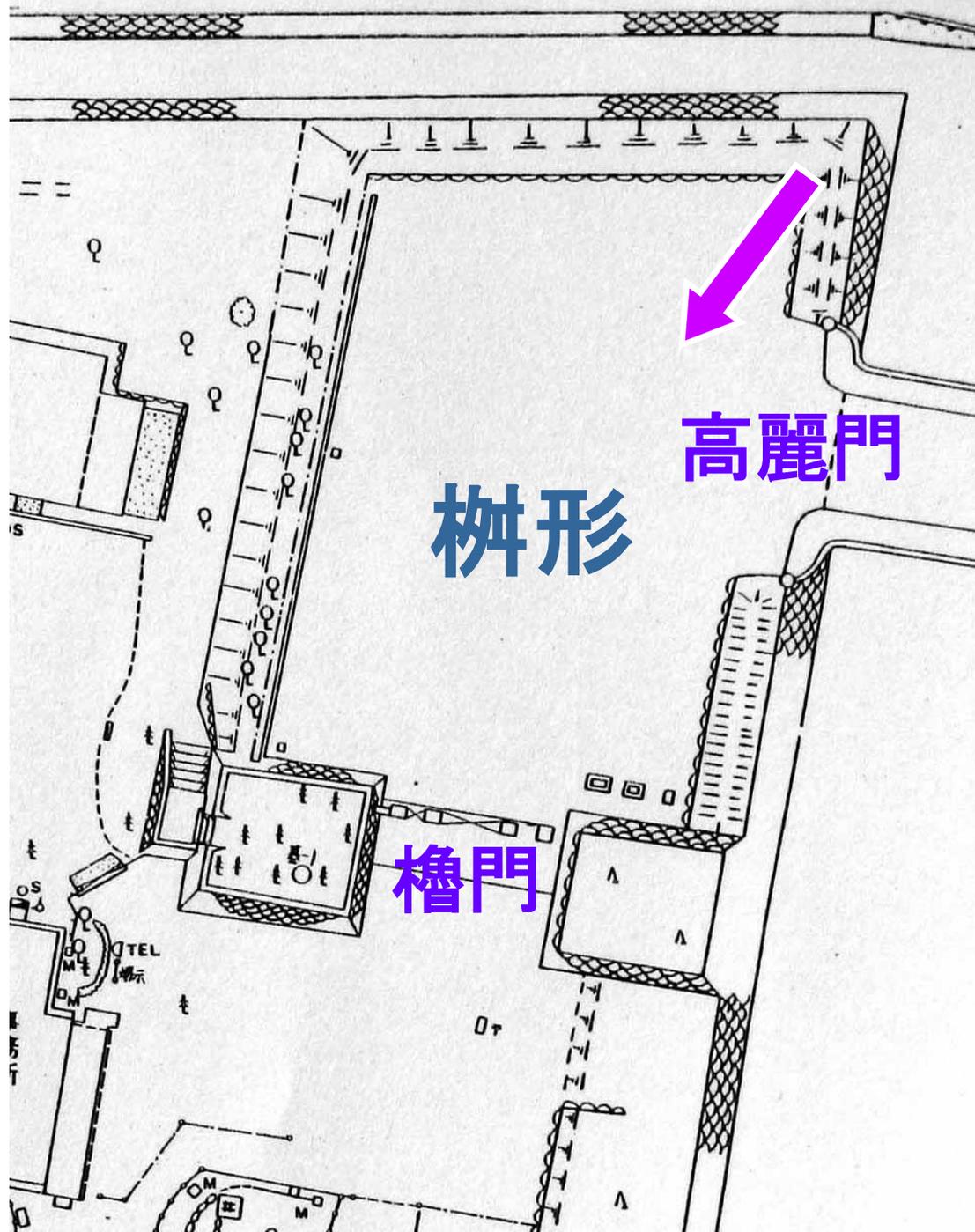
大手門



提供：
東京都東部公園緑地事務所

浜離宮恩賜庭園

大手門



提供：
東京都東部公
園緑地事務所



櫓台

枳形

内のり 43m × 27m

= 24 間 × 15 間

江戸城のすべての枳形中で最大

櫓台

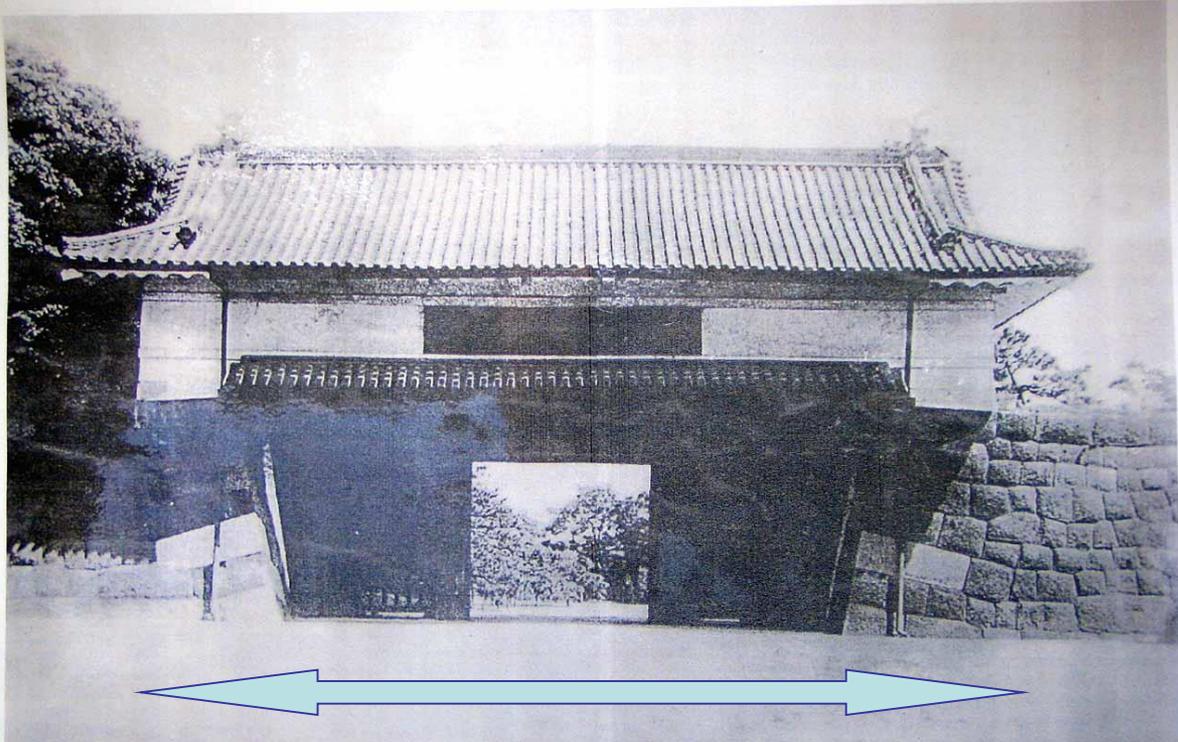
奥行き 8m = 4 間.

長さ 33m = 18 間

馬場先門13間, 半蔵門16間 [大熊] より長い

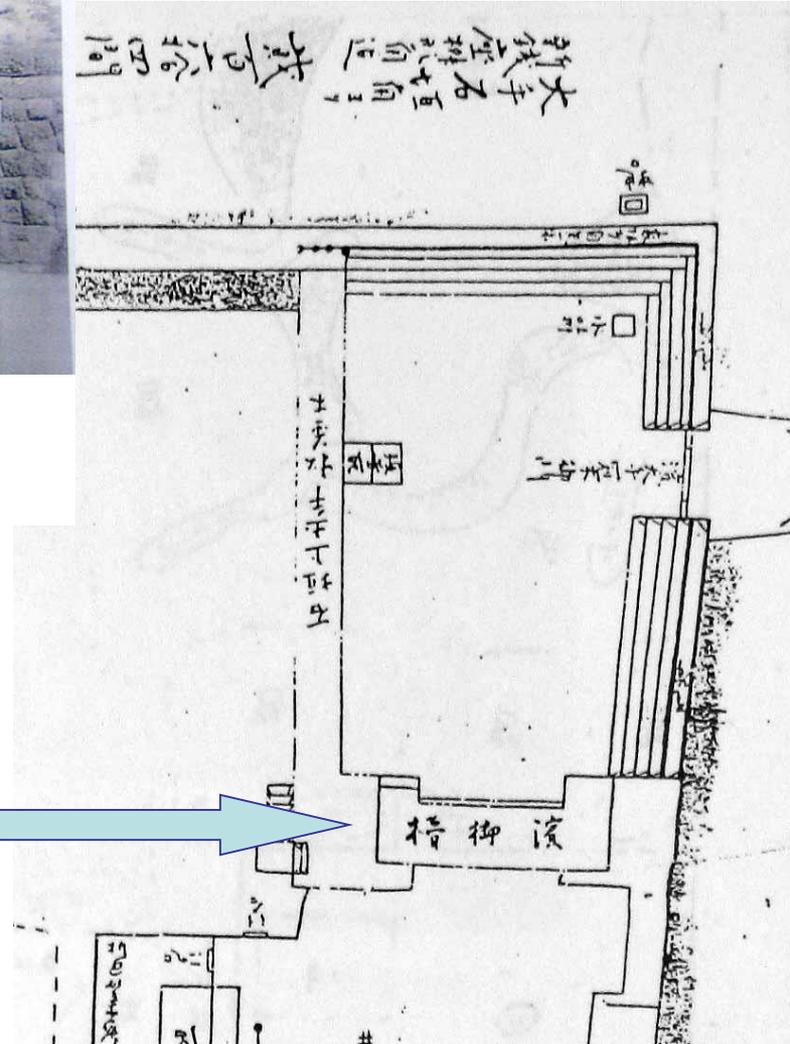
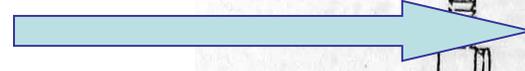
わたりやぐら

渡櫓



長さ 9 間.

渡櫓は
当初から狭い



かつての建物

- 大手門 渡櫓
- 浜御殿（早期に焼失）
- 茶屋
中島茶屋，海手茶屋，清水茶屋＋汐見茶屋
→ 中島茶屋，鷹の茶屋，松の茶屋，燕の茶屋
- 粃倉
- 浜御殿奉行役宅，浜御殿添奉行役宅
- 船見番所，船蔵，船手組屋敷。

図136 浜庭園の図（家斉時代）

建物

- ①中島御茶屋
- ②(新銭座鴨池)
- ③(庚申交鴨池)
- ④中御門
- ⑤大下御門
- ⑥浜御殿奉行御役宅
- ⑦浜御殿丞奉行御役宅
- ⑧御上り場
- ⑨船見御香所
- ⑩御船蔵
- ⑪御船手組屋敷

焼失した
御殿

粃倉

御上り場

家斉時代

注：「御浜御殿ノ絵図」(徳)

橋の変遷

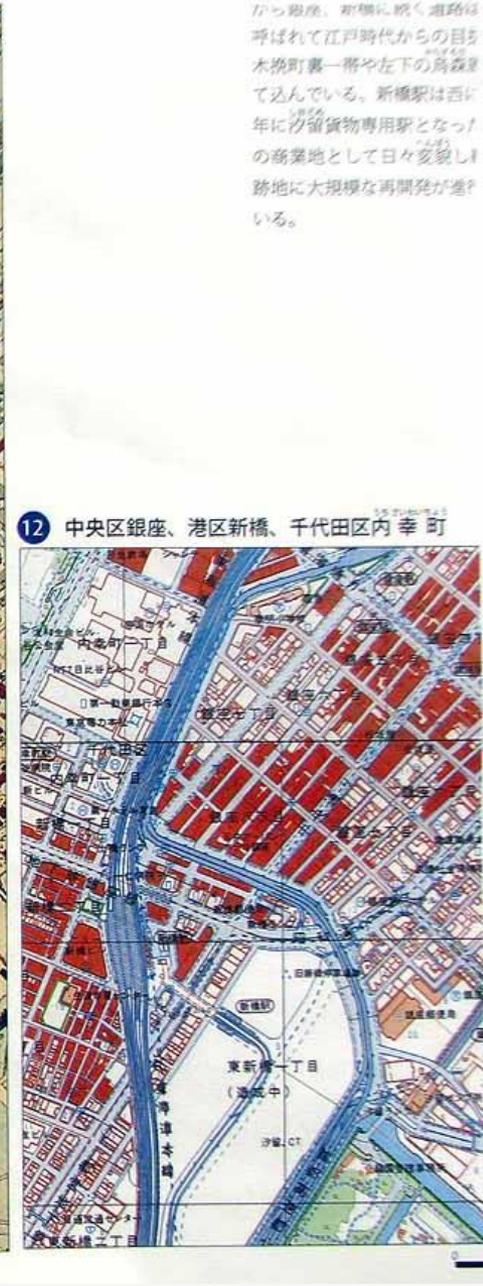
- **2 箇所** → **4 箇所**(宝永)→ **2 箇所** [府内]
- 元禄時代から**大手門**の位置は不変.

海軍所

- 幕末(慶応2年)に海軍所となる。
- 軍艦操練所が鉄砲州から移転してくる。
(軍艦操練所は、後に海軍兵学校となる。)

延遼館

- ・ 幕府海軍 伝習屯所 として建設開始
- ・ 日本初の石造洋館（石室）
- ・ 鹿鳴館が完成するまでの迎賓館.



がっ親座、新橋に続く道路は呼ばれて江戸時代からの目黒木挽町裏一帯や左下の島倉まで込んでいる。新橋駅は西に年に汐留貨物専用駅となつたの商業地として日々多量に跡地に大規模な再開発が進んでいる。

12 中央区銀座、港区新橋、千代田区内幸町

[幕末] 『現状比較 地図と写真で見る幕末明治の江戸城』

訪れた外国人

幕末（慶応3年） [維新]

- イギリス 特派全権公使（パークス）
- フランス 全権公使（ロッシュュ）
- イタリア 特派全権公使（ラ・ツール夫妻）
- イギリスの写真家（ベアト）

明治維新後

- 前アメリカ大統領 グラント将軍（明治12）
- オーストリア 皇太子（明治26）

慶応三年ころ



111.大君の夏の別荘。

(C) [THE TYCOON'S SUMMER GARDENS AT YEDO] [ベアト] 『幕末日本の風景と人びと』

参考文献

現状写真： 国土画像情報（カラー空中写真）国土交通省.

- [百選] 「江戸城」『日本名城百選』小学館，2008.
- [大系] 「江戸城」平井聖ほか編『日本城郭大系』第5巻，1979.
- [見附] 日本城郭協会編『江戸城三十六見附繪圖集成』新人物往来社，1985.
- [江戸] 玉井哲雄『江戸 — 失われた都市空間を読む』平凡社，1986.
- [築港] 東京市役所編纂「東京築港計画平面図」『東京市史稿』港湾編第五，1927.
- [湾図] 「明治五年 武蔵国東京海湾図」『中央区沿革図集』月島篇，京橋図書館，1994.
- [大熊] 大熊喜邦『江戸建築叢話』東亜出版，1947.
- [復元] 吉原健一郎，俵元昭，中川恵司 編集・制作『復元江戸情報地図』朝日新聞社，1994.
- [図解] 深井雅海『図解・江戸城をよむ』原書房，1997.
- [将庭] 水谷三公『将軍の庭 — 浜離宮と幕末政治の風景』中公叢書，2002.
- [府内] 幕府普請奉行編「御府内沿革圖書」『江戸城下変遷絵図集』9，原書房，1985.
- [幕末] 平井聖，浅野伸子『現状比較 地図と写真で見る幕末明治の江戸城』2003.
- [維新] 『維新史料綱要』東京大学出版会，1966.
- [ベアト] 横浜開港資料館編『F. ベアト写真集 1 — 幕末日本の風景と人びと』明石書店，2006.

謝辞 中央区立京橋図書館司書の菅原健二氏と
東京都東部公園緑地事務所の根来千秋氏 に感謝いたします.

おしまい

